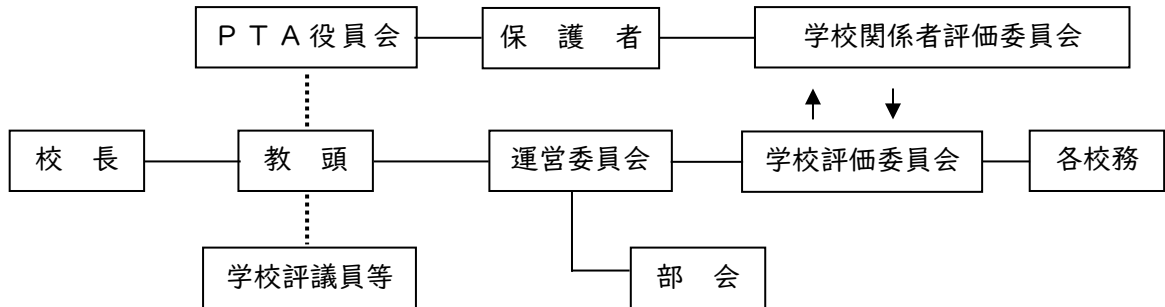


令和 3 年 度 学 校 評 価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

時期	項 目	会議等
前期	① 本年度の課題・重点目標の発表 ② 各部・分掌の重点目標、方策の立案、評価シート作成 ③ 全職員の共通理解 ④ P T A 役員への学校評価の説明と協力依頼 ⑤ 保護者への説明 ⑥ 学校評議員会開催 ⑦ 教育活動の中間評価報告・方策の見直し ⑧ 評価の分析と中間報告のまとめ	職員会議 各部・校務分掌会 職員会議 P T A 役員会 P T A 総会 各部・校務分掌会 学校評価委員会
後期	① 学校評議員、P T A 役員会へ中間報告 ② 保護者への報告 ③ 教育活動の最終評価 ④ 本年度のまとめと次年度の計画案づくり ⑤ 評価と分析、最終報告のまとめ ⑥ 全職員の共通理解 ⑦ 評価 ⑧ 次年度の教育計画の確定	学校評議員会、P T A 役員会 個人懇談会、H P 部会、分掌会 部会、分掌会 学校評価委員会 職員会議 学校関係者評価委員会の開催 職員会議

(3) 本年度の学校評価

重点目標 本年度の	1 本校の目指す子ども像「社会とつながり いきいき エンジョイ みよしっこ」を思い描いた授業づくりに向けた研修に取り組み、実践と評価を行う。 2 最新の情報に基づいた、安全で安心な環境づくりに努める。 3 業務の目的や内容を見直すとともに、働き方の改善を図る。
----------------------------	--

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
<p style="text-align: center;">授業づくり</p>	<p>新学習指導要領に基づき、新しい教育課程を実践し評価する。</p> <p>12年間の学習の系統性を検証し、生活単元学習を中心に年間指導計画を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任者会の場で、優れた実践を取り上げ、共通理解を図る。それぞれの学年のよいところを学び合うことによって、部全体の底上げを図る。 <p style="text-align: right;">(小学部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、学年会の記録などを参考に、効果的な目標設定の仕方や、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくり、「思考力、判断力、表現力」を養う学習活動の工夫等、優れた実践事例等を取り上げる。 ・学年主任者会（教育課程を検討する会）で、理解を深めることによって、教務主任と共に学年主任が、学習指導要領の理解者となり、個別の指導計画の作成に関し、学年を牽引できるとよい。
	<p>常に専門性の向上に努め、発達段階や年齢、特性に応じた授業を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階や特性を把握し、それに応じた授業内容の充実を図ったり、教材・教具や環境設定などの工夫を行ったりする。 <p style="text-align: right;">(中学部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した学習内容の整理や授業づくり、三観点での目標設定と評価を行う。 ・自立活動プロフィール表をもとに中心的課題や重点目標を学年で検討し、共通理解を図る。各教科や教育活動全体との関連を図ることを意識していく。 ・中学部の生徒の実態に合った作業種目や作業内容の変更を含めた見直しを進める。 ・ICTを活用した様々な授業実践を共有する機会を設ける。
		<ul style="list-style-type: none"> ・昨日より今日、もっといい授業のために準備や検討を密に行う。 ・自立活動、総合的な探究の時間、生活単元学習、作業学習の年間指導計画、指導体制、指導内容の改善を図る。 <p style="text-align: right;">(高等部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「それって、いきジョイ?」「もっと、いきジョイ!」をテーマに、校内研究、教育課程検討会、部会等で対話を重ねる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の特性に応じた支援につながる研修会や情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。 ・児童生徒のより良い支援につながる自立活動プロフィール表について考える。 <p style="text-align: right;">(自立活動部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践にあたって参考となる具体的な支援について専門家による研修会を計画し、実施する。 ・自立活動だよりを通して、自立活動に関する情報の提供をしたり、教員の授業実践を紹介したりして、具体的な支援方法を提示する。 ・専門性の高い教員や発達センターと連携し、自立活動に関する相談会を開き、具体的な支援方法を学ぶ機会を設ける。 ・自立活動の時間における指導が全校で始まるにあたり、より使いやすく次年度につながるような自立活動プロフィール表の検討していく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教員と関わり、日常生活が豊かに なる授業を実践する。 (東名古屋病院) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の実態を捉えた教材・教具を、 創意工夫したり作成したりする。 ・日常生活の指導や生活単元学習の年間指導計画について、適切な指導内容や活動量の確保を考えながら見直しをする。 ・病棟の看護師や保育士との連携を密に 図り、児童の体調に合わせた安全な環境の中で授業が実践できるようにする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各部の教育課程や教務関係書類の理解を深め、授業力の向上を図る。 (教務部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部で研修会を実施し、新学習指導要領に基づいた授業が行えているかの検証を教務関係書類(特に個別の指導計画)の実践状況を基に行う。 ・各部内で実施する教育課程検討会を軸に、教育課程の実施に伴う成果や課題について検討し全職員と共有を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「いきジョイ(校内研究)」に全校で取り組み、生活単元学習の年間指導計画について全教員で共に考え、学び合う中で、専門性の向上を図る。 ・教員が部間のつながりを意識しながら、子ども一人一人の指導や支援について考え、実践できるようにサポートを行う。 (研修部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいテーマでの研究を始めるにあたり、全教員で生活単元学習について共通認識をもつことができる場を設ける。 ・各部の取組や進捗状況を共有し、共通理解できる機会や場を増やす。 ・小学部、中学部、高等部、教務部等と連携・協力しながら研究を進めていく。 ・他部の子どもや授業の様子を知ったり、互いに気軽に意見交換できる雰囲気づくりをしたりすることができるように「部を越えた自由な授業参観」ができる期間を年間2回設定する。
<p>安全で安心できる環境づくり</p>	<p>最新の情報に基づき、感染症対策を徹底する。</p> <p>病気や事故、災害に対する緊急体制を全職員で見直し、徹底を図る。</p> <p>一人一人がより豊かな生活を思い描き、その実現に向けて関係機関と連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の支援において、相談資源の活用を広げ、関係機関との連携を図る。 ・小・中学校、高等学校や市町のニーズを収集し、ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との協働体制を構築する。 (教育支援部) ・病気や事故、災害時の対応について、今までの取り組みを整理、検討し、対応や行動の仕方について職員間で共通理解を図る。 (生活指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談資源に関する情報を発信し、児童生徒、教員への支援に役立てる。 ・他の校務分掌と連携しながら、校内支援体制を整理する。 ・アンケートでニーズを調査し、相談活動を中心に支援方法に関する情報を提供する。 ・各種研修会等で、本校の専門性を生かした取組を発信するとともに、情報交換や情報共有を通して、協働体制を構築する。 ・避難訓練を計画的に実施し、必要な部分は改善し、災害時に的確で迅速な行動ができるようにする。 ・災害時対応マニュアルについて、今までの本校の対応を整理し、分かりやすい形で作成する。 ・スクールバスの緊急時の対応を整理、検討し、対応について職員間で共通理解を図る。 ・非常食のあり方を見直し、充実を図る。

		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が、健康に関する知識を身に付け、自主的に健康生活を送ることができる資質や能力の育成を図る。 (保健体育部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に伴う対応に重点を置く。最新の情報を全職員が共有できるように働きかけていく。検温による健康チェックや手洗い、手指消毒なども積極的に推進し、学習場面や登下校、給食場面での感染症対策を進めていく。 ・食に関する指導場面での感染リスクの回避やその対策意識を高めるための取組を進める。
		<p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員向けの進路に関する勉強会を実施する。 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に向けて進路に関する情報を提供する。 (進路指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部の職員にアンケートをとり、進路についての質問などをあらかじめ取りまとめて、職員の勉強会のときに対応できるようにする。 ・進路に関する調査を行い、進路説明会や進路情報連絡会などで、保護者の進路に関する意識や質問に説明していく。進路に関する講演会や事業所の情報なども随時連絡していく。
		<p><高等部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習の実施を増やし、進路を考える機会を増やす。 (進路指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の産業現場等における実習で、卒業後の進路を考える機会を増やす。実習の実施時期が、進路の流れや学校行事と合っているか確認していく。
<p>働き方の改善</p>	<p>一人一人が自らの働き方を見つめ直し、計画的に業務を進める。</p> <p>「あたりまえ」と思っている業務を目的に合った内容や進め方に見直し、実践する。</p> <p>職員一人一人の生活や働き方を認め、支え合う職場づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部内や校内の業務改善に向けたアイデアを募集し、関係部署と実行可能か検討する。 ・各学年内で効率的な業務の進め方を工夫した事例等を、学年主任者会や部会の場で紹介する。 (小学部) ・教務関係書類に関してできる限り遺漏や遅延なく業務を進められるようにする。 (教務部) ・職員室内の文書及び物品の整理整頓を行い、物の位置や表示を改善することにより、仕事の効率化を図る。 (総務部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・45時間以上の勤務超過が継続される教員については、個別で聞き取りをし、業務を削減するための方策を検討したり、業務の割り振りを勧めたりする。 ・ネットワークを活用し、マニュアルの充実を図る。 ・教務部での理解度を深め、教務主任を中心に相談窓口の充実を図る。 ・教務関係書類の作成や活用状況について、アンケートを取るなどし、適宜見直しを進める。 ・職員室内の文書及び物品の位置を決め、新しく本校に勤務する人でも分かりやすい物の位置や表示にしていける。また、必要な文書や物品がサーバー上で確認できるようにしていく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・校内サーバーの整備及びデータの整理を進め、必要な情報が利用しやすい環境づくりを行う。 ・ICT機器の整備及び設定を進め、利用可能な状態を維持する。 (教育工学部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当から積極的に必要な情報の掲載依頼を受け入れ、効率的に情報にアクセスできる校内ネットワークづくりを進める。 ・サーバー内のデータ整理の促進運動を行い、積極的な整理や消去を促す。 ・教員用PCやNASサーバー、プリンター等の設定やメンテナンスを行うとともに、利用方法についての情報共有を続ける。 ・生徒用タブレットが学習に利用できるように整備を行う。
<p style="text-align: center;">学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・研修に努め児童生徒の将来像を描いた授業づくりを行う。 ・関係機関との連携を図り、最新の情報に対応した安全で安心な環境づくりと支援を行う。 ・業務の目的や内容の見直しとともに、職員の働き方の改善に取り組み、勤務時間の適正化を図る。 	